

令和4年度第1回

武蔵村山市総合教育会議 会議録

令和4年10月3日

武蔵村山市

令和4年度第1回武蔵村山市総合教育会議

1 日 時 令和4年10月3日(月)

開会 午前10時30分

閉会 午前11時1分

2 場 所 武蔵村山市役所3階 301会議室

3 出席委員 山崎 泰大 池谷 光二
大野 順布 杉原 栄子
比留間 雅和 潮 美和

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 諸星 裕 学校教育担当部長 東口 孝正
教育総務課長 平崎 智章 指導・教育センター担当課長 赤坂 弘樹
教育施設担当課長 櫻井 謙次

5 会議に出席した事務局の職員

企画財政部長 神子 武己 企画政策課長 増田 宗之
企画政策課企画政策係長 久保田 智子 企画政策係 主任 蔭山 勝士

議事日程

1 開 会

2 議 題

民間プール試行利用事業について

3 その他

4 閉 会

◎開会の辞

○神子企画財政部長 おはようございます。

本日の会議に際して、傍聴の申出はございませんので、御報告させていただきます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○山崎市長 それでは、ただいまより、令和4年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日は御多用の中、令和4年度第1回総合教育会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

早速ですが、会議次第に従いまして会議を進めてまいります。

なお、本日は、説明員として、教育部長、学校教育担当部長、教育総務課長、指導・教育センター担当課長及び教育施設担当課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

◎議題 民間プール試行利用事業について

○山崎市長 本日の議題につきましては、「民間プール試行利用事業について」でございます。

それでは議題について説明員から説明をお願いいたします。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 それでは、「令和4年度民間プール試行利用事業報告書」について、御説明いたします。報告書の1ページをお開きください。

本事業の目的は、民間プールを利用し、インストラクターによる専門的な指導を行うことで、児童の水泳運動における技能面を向上させること及び学校プール施設の維持管理に対する費用対効果について検証を行うことでございます。

「2 経緯」とさせていただきましたが、本事業は令和2年度実施計画事業でございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度に実施となりました。

「3 実施形態及び経費」につきましては、対象校を第二小学校及び大南学園第七小学校とし、民間プールはいずみスイミングスクールとスポーツイントライとして、インストラクターは株式会社フクシ・エンタープライズから派遣をいたしました。

経費は総額10,537,000円となりました。

各校の内容は、1ページから2ページの記載のとおりでございます。

3ページを御覧ください。ここからは、検証とさせていただきます。初めにアンケートの結果についてでございます。

3ページは、児童対象のものとなります。

楽しさや、技能面の向上、指導の分かりやすさという点では、肯定的な回答が多くなりました。プールまでの移動については、「大変だった。どちらかというと大変だった。」と感じる児童と「大変ではなかった。どちらかというと大変ではなかった。」と感じる児童がほぼ半数に分かれる結果となりました。

自由意見としては、「丁寧に教えてくれる。」、「できたらほめてくれる。」、「雨でも水泳ができる。」、「水が冷たくない。」といった肯定的な意見がある一方、「他のグループの人の声が邪魔になることがある。」といった課題も挙げられました。

4ページについては、教員対象のものでございます。

楽しさや、技能面の向上、指導の分かりやすさという点では、児童同様に肯定的な回答が多くなりました。プールまでの移動については、第二小学校で約7割、大南学園第七小学校で約6割の教職員が大変だと捉えていることが分かりました。

自由意見としては、「専門的な指導で楽しさ、安全面ともによかった。」、「インストラクターから多くのことを学ばせていただいた。」、「時間で区切り、様々な動きや道具を取り入れ、飽きさせない工夫があった。」、「教員による水質管理がなくなるという点で放課後の業務改善につながった。」という肯定的な意見がある一方、「雨の日の引率が危なかった。」、「時間帯によっては、車や幼稚園の送迎バスと狭い道幅ですれ違うため危険だった。」、「移動のために授業時間を使ってしまう」などの移動面について課題とする意見がございました。

5ページは、技能面の向上に関するアンケート結果です。

7月の方が下がってしまっていることについては、欠席等により回答数に差があることが理由として考えられます。

技能面の向上が顕著に見られたのは、第6学年のクロール、第5学年の平泳ぎ、第6学年の平泳ぎでした。

6ページは、費用についてでございます。本事業経費は、10,537,000円です。

令和3年度の1校当たりの維持管理経費は、690,810円となります。このほかに、ろ過機等の修繕に2,193,620円（小学校6校）、更衣室の工事に322,300円（小学校1校）が経費と

して発生しております。

7ページは、まとめになります。

本事業は、民間プールを提供していただいた、いずみスイミングスクール及びスポーツイントライ、インストラクターを派遣していただいた株式会社フクシ・エンタープライズと各校が連携を密にして実現できた事業でございます。

複数のインストラクターによるグループ指導を行ったことで、安全面を確保しながら、児童の運動量を増加させ、楽しみながら技能を高めることができました。

しかし、成果の陰には、各機関において大変な確認作業がございました。教員による指導ではなくインストラクターによる指導となりましたが、教員は引率、指導補助等を担ったため、他の業務に時間を充てるというような業務改善とはなりませんでしたが、教員による水質管理がなくなったため、放課後の業務改善には大いに寄与しました。

経費の面から見たとき、単年度で見ると、本事業の方が高くなりますが、将来的な施設計画を踏まえながら検討する必要があります。

今年度は民間プールに比較的近い立地にある2校で徒歩移動しましたが、高学年で15分以上かかっております。他校で実施する場合は、路線バスや借上げバスでの移動が必要になります。

全校での実施については、通年で実施したとしても、全校分の枠を設けるには、1人当たりの授業時数を大幅に削減しなければならないことが懸念として挙げられます。

報告は以上でございます。

○山崎市長 ただいま説明がありましたが、皆様から御意見・御質問等があれば、お願いいたします。

○大野委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、大野委員。

○大野委員 初めに、各学校に専用プールが当たり前の時代になりましたけれども、一方で、夏の時期だけ使用する学校のプールは非効率だというのは誰もが思っているところではないかと思えます。そのようなことから、今回の試行は大変意義のある試みではないかと思えます。

その上で、1点お尋ねしたいのですが、報告書のまとめの最後のところを見ますと、「全校での実施は難しい。」と受け取れる表現になっております。そこで思うのですが、どの学校も平等にというのが理想ではありますが、学校の地理的な条件の違いによりまして、今と同様に自分のところのプールを使う学校もあれば、民間プールを利用する学校もある。また、

一つの学校のプールを近くの学校同士共同で使用する学校もあるなど、いろいろなパターンが許されるのであれば、民間プール以外にも効率化を図る方法はあるのではないかと考えたところでございます。各学校の公平性の観点から、そういう考えはどうかということをお聞きしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 各学校で様々な工夫という部分でございますが、現在のところ、全ての小学校、中学校のプールが施設面で使用可能という状況でございますので、学校でやることはできると思います。維持管理経費、水道料等を節約するために、隣接する学校でプールを一つにするということは工夫の一つとして考えられるかと思っております。

○大野委員 全ての学校が足並みを揃える必要はないということであれば、先ほど言いました地理的状况などを元に、それぞれにふさわしい方法を考えていけばいいのではないかと、そういう観点に立てば、また一歩進められるのではないかと考えた次第でございます。ありがとうございました。

○山崎市長 他にございますか。

○比留間委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、比留間委員。

○比留間委員 まとめのところにもありますが、働き方改革という視点において、教員の方々の負担については、どのように評価されたのでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 働き方改革の部分につきましては、教師自身が水泳指導を主として行うことがなくなったので、その部分は業務の軽減につながりました。しかし、教員がその時間、職員室で待機ということではなく、指導の補助や引率に職員が必要となったため、そういった部分では業務軽減とはなりません。ただ、放課後はどこの学校でもプールの水質を管理するために、多くの時間をとっておりましたが、学校のプールを使わないということで、水質管理をする必要がなくなったという部分では放課後の業務改善には大きく寄与したところがございます。

○比留間委員 ありがとうございます。

○山崎市長 他にございますか。

○潮委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、潮委員。

○潮委員 資料を拝見しまして、児童や先生方の意見は理解できましたが、施設側から何か御意見等があればお伺いしたいと思います。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 施設側に対してアンケート調査は行っておりませんが、調整をする中で、時間の制限という部分で課題があったかと思っております。例えば、いずみスイミングスクールであれば午前中のみで実施してほしいとの意見や、スポーツイントライであれば午前9時から10時までの間で実施してほしいというような時間的な制約については、御意見をいただいております。また、外部施設ということで、絶対に事故なくという部分で、学校の施設でも当たり前ですが、安全管理については、非常に重視した点でございます。

○潮委員 ありがとうございます。施設を借りるに当たりまして、子どもたちのマナーという部分について、スイミングとなると忘れ物や髪の毛の後始末という部分が気になりましたが、それは日頃から先生方に御指導いただいているお陰で、施設側からそういった意見がなかったというのはよかったですと思いました。

1点、私の意見といたしまして、課題として挙げられている移動手段についてでございます。夏の暑い時期に高学年で移動時間が15分以上かかっており、天候や道路状況など、危険を感じる場所があったということですので、たとえ近い距離であったとしても、バスの利用をしていただくのが望ましいのではないかなと感じました。予算のことや先生方の負担もあるかと思いますが、まずは、子どもたちの安全を第一に考えて、何かあってからでは遅いと思いますので、計画・検討し、進めていただきたいと思います。

○山崎市長 他にございますか。

○杉原委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、杉原委員。

○杉原委員 学習指導要領に基づいてということは大事なことです。水泳指導を委託した場合、ある意味で、教師が知らないということは、デメリットもありまして、教師の指導力の向上という面でもちょっと課題があるのではないかと思います。それから、8ページを見ますと、夏季プールは開いているということで、この時期は水質管理を学校でやっているという風に考えてよろしいのでしょうか。要するに、仕事の軽減になるというのは、夏季プール以外のところを指していると考えてよろしいでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 夏季水泳指導につきましては、2校のプールは使わずに実施いたしました。第二小学校の方ではいずみスイミングスクール、第七小学校の方は、夏季水泳期間はスポーツイントライの方でも夏季プールが行われているということでしたので、使えないということから、隣接する大南学園第四中学校のプールで第七小学校の児童をフクシ・エンタープライズのインストラクターが指導したというような形になっております。

○杉原委員 ありがとうございます。実態によっていろいろ工夫ができると思いますが、公立学校ですので、公平性ということから考えれば、1校で1千万円かかるということは、全校だと7千万円、移動のことを考えてバス等を借上げたら、1億円の予算になると思われま。確かにこの取組については、メリット・デメリットがあり、メリットの方はやはり天候や季節を問わずに活動ができますし、インストラクターによる指導もあります。技能面の向上も挙げられておりますが、デメリットとしては、往復時間のことや予算のこと、もう一つは教師の指導力を活用していないというのが大きいと思います。

以前は、学校プールの中で様々な活動をやっておりました。例えば、プール開きのときはお清めの儀式ということで、高学年とともに、安全を祈るという式もありました。こういったものが教育の一環として行われることを考えれば、学校のプールを使うということは非常に意義が大きいと思います。昔、学校のプールで実施していた着衣水泳などを、インストラクターを招いて安全に行ったりした方が教育として効果的なのではないかと思えます。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 御意見いただきましてありがとうございます。インストラクターと教員の指導については、なるべく差がでないように、インストラクター側にも学習指導要領を踏まえていただくということは気を付けたところでございます。また、着衣水泳につきましても、水難事故を防止する観点から、学校で行っているもの以上に、インストラクターには徹底して指導を行っていただいたという部分はございますが、学校の中にあるプールのメリットということで、杉原委員からいただいた御意見を踏まえていければと思います。

○山崎市長 杉原委員にお伺いしますが、学習指導要領については、最終的に泳げない子が泳げるようになるといったことは求めているのでしょうか。

○杉原委員 それは特に求めておりません。年齢に合わせて怖くないように水泳運動を行い、

子どもたちに水に慣れさせていくというのはありますが、これだけやりなさいといったものは特にありません。ただ、クロールや平泳ぎは3・4年で泳げるようにするといった目標はあります。

水泳というのは他の運動と違って、陸上の運動はやっていなくても応用が利きますが、水泳だけは一回でも多く泳いだ方が上手になりますので、これは水泳の特殊性だと思います。

○山崎市長 先生が泳ぎ方の指導とかはされているということでしょうか。

○杉原委員 そのとおりでございます。夏休みに子どもたちが夏季プールに行きますけど、一回でも多く泳いだ子どもの方が泳力が伸びるという点があります。

○山崎市長 5ページの技能面の向上とありますが、この数字はどのように見ればよいのでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 5ページの表の中の数字につきましては、上段が二小と七小からのアンケート結果でございまして、下段の括弧書きの数字については、二小と七小を除く他の小学校からのアンケート結果をパーセンテージで表したものになります。

○山崎市長 泳ぐことができる児童の割合というのは、この1年間で泳げるようになったことを指しているのでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 「ア クロールで25m泳ぐことができる児童の割合」を例に挙げますと、「クロールで25m泳ぐことができる」という選択肢に丸をつけた児童の割合となっております。

○山崎市長 技能面では上がっているということでしょうか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 そのとおりでございます。

○潮委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、潮委員。

○潮委員 ただいまの技能面の割合に関してですが、今年度はインストラクターの方に教えていただいて、昨年度までは先生が教えていたと思いますが、その割合の差が分かればお教えください。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 昨年度にこのような調査を行っていないので、同一集団での違いというのは分かりませんが、インストラクターのあり・なしという部分で、括弧書

きのものはインストラクターなし、括弧書きでないものについてはインストラクターありという風に見ていただければ、その違いが分かるのではないかと思います。

○潮委員 インストラクターの方に指導をいただくということは、教師の指導力の低下につながるのではという意見がありましたが、子どもたちからすると、専門分野の方に教えていただくことで、水泳に対する姿勢も変わってくるのではないかと思いますので、各学校のプールを使いながら、インストラクターに指導してもらおうというのもいいのではないかと思います。

○杉原委員 私も賛成でございます。この取組に関しましては、これだけやってメリット・デメリットがはっきりしましたので、この中のメリットを活かすということで、専門的な人や講師を呼んで、学校の中でいかすということも大切なことだと思いました。

○山崎市長 ただいまの御意見について、教育委員会事務局として何かございますか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 現在、小学校のプールの指導については、水泳の補助ということでボランティアの学生や地域住民の方に入っていただく仕組みはございます。その上で、今回派遣していただいたインストラクターを学校のプール指導に派遣してもらえるかということにつきましては、人材の確保に難しさを感じたため、そこは検討の必要があるかと思います。

また、指導の専門性という部分については、現在検討が進んでおります教科担任制等も考えられるかと思います。

○山崎市長 民間プールの試行利用について、千葉県佐倉市よりも先に計画していたところではありますが、佐倉市は試行が終わっており、全面的に実施されていると伺っております。それから、多摩市でも民間プールについて研究・試行していると伺っておりますが、その辺の状況については調べてありますか。

○赤坂指導・教育センター担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、指導・教育センター担当課長。

○赤坂指導・教育センター担当課長 近隣市から聞き取り等を行い、東京都内で同様の事業を行っているかというのは調査しております。なお、佐倉市の方につきましては、全面的に実施しているという情報は得ております。

○東口学校教育担当部長 一番近いところで民間プールの利用を研究しているのは東村山市で、こちらはスポーツセンター、市民プール、焼却場の中に作ってある温水プールの3か所を使

い、移動手段はバスとしておりますが、費用対効果を考えるとかなり厳しいということで、試行してみるかどうか悩んでいると伺っております。また、東久留米市でも試行しようと考えているそうですが、スポーツクラブの協力がなかなか得られないということで困っているという話は伺っております。

○山崎市長 民間プールの試行利用の目的は何か伺っていますか。

○東口学校教育担当部長 はい、市長。

○山崎市長 はい、学校教育担当部長。

○東口学校教育担当部長 施設の老朽化に伴って、メンテナンスで一番大きいのがろ過機を新しくする場合に、非常に費用がかかるということと、プールが建てられた年代によって、底面の造り方の方式が三つぐらいあるのですが、それによっても、維持するために大きな費用がかかってくるというところでの検討と伺っております。

○山崎市長 公共施設での計画はどのようになっているのでしょうか。

○神子企画財政部長 はい、市長。

○山崎市長 はい、企画財政部長。

○神子企画財政部長 公共施設等総合管理計画若しくは個別施設計画には、プールについての具体的な記載は、今のところございません。

○大野委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、大野委員。

○大野委員 今、経費の話になっておりますが、経費という面から見れば、何よりも施設の更新が一番大きいのではないかと思います。一つのプールを新たに造るとしたら、どのぐらいの費用がかかるものなのか、お教えいただければと思います。

○櫻井教育施設担当課長 はい、市長。

○山崎市長 はい、教育施設担当課長。

○櫻井教育施設担当課長 小中一貫校村山学園において、平成21年度のときにFRP製のプールを新築したときの契約額を申し上げますと、1億2,400万円程度かかっております。プールの本体とプールの付属とそこに組むろ過機、全てを盛り込んだ工事費となっております。

○大野委員 ありがとうございます。

○山崎市長 他に何かございますか。特によろしいでしょうか。それでは、そのほかに御意見がないようですので、「議題 民間プール試行利用事業について」は、皆様からいただいた御意見を受け止めさせていただいて、今後どのようにしていくか、改めて教育委員会や学校

に伺いながら考えていきたいと思えます。報告につきましては、説明員からの報告のとおりといたします。

◎その他

○山崎市長 次に、「その他」として何かございますか。

(発言する者なし)

○山崎市長 事務局からは何かございますか。

○神子企画財政部長 特にございません。

◎閉会の辞

○山崎市長 それでは、これをもちまして令和4年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日は御出席をいただきまして大変ありがとうございました。

午前11時1分閉会